

竹島問題とか日韓併合について、冷静で正確な分析が出来ない自称ジャーナリストにイライラしている今日この頃・・・。そんな中、**冷静で正確な分析を語っている動画**を見つけたので書き起こしました。

韓流・K-POPブームで、日韓の関係は良好だと思っていたアシスタントが、この松木氏の本を読んだら、**「凄くビックリすること多くて、ショックだった。」**と言ったのが印象的。

韓流・K-POP好きの人も、最低限これくらいは知ってほしいものです。韓国が大好きなら尚更ね。

動画の説明文：韓国駐在などのご経験を踏まえ、この程、**『ほんとうは、「日韓併合」が韓国を救った!』**を上梓なさった松木国俊氏をお迎えし、日韓間の真の相互理解のためにも、日本人自身が知っておくべき**「日韓併合」の実相**について、**いわゆる「従軍慰安婦」の虚構性や、「小中華思想」の影響、総督府発行の教科書にも明らかな「七奪」の誤解、そして、韓国人自身が先人達の努力を認めることの重要性などに触れながら、お話しいただくとともに、軍事占領されている状態の竹島を取り返すために心すべきことなどについても、お伺いします。**



(紹介・挨拶 略)  
「.....あの松木先生、こういう本を今回ご出版されてましてですね、**『ほんとうは“日韓併合”が韓国を救った!』**というこれまた出たばかりの本。」

松木氏「そうですね**先遇出たばかり**ですね。」

浜口氏「私も読ませて頂きましてですね、かなりですね、勉強になるというか、そういう一冊かなあという気がしたんですけども、」

松木氏「はい、ありがとうございます。」

浜口氏「(中略)まあプロフィール見ますとね、**韓国駐在の経験**という事で、そういう関係

で今回のご出版にも関係しているんですか。」

松木氏「ええそうですね、やはり私は韓国とはもう長いお付き合いがございまして、会社に入社して韓国の担当になりまして、そのあと駐在4年ちょっとおりました。

その後もずっと取引を、東南アジア特に韓国を中心にやってまいりましたので、まあいろいろと韓国については、まあ**色んな思い**もございまして、**いろいろな体験**もしてまいりましたので、それも合わせてですね、**私の韓国に対しての思い、これをまあ今回、本にまとめさせて頂きました。**」

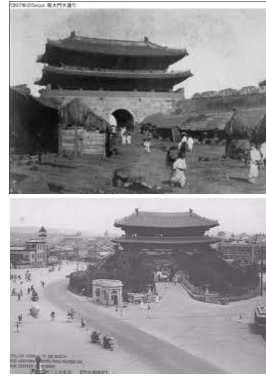
浜口氏「まあどうしても一番近い国でありながらですねえ、意外とこう上手く行かない様子がある国かなあという気がするんですけど。」

松木氏「やっぱりですね、顔はそっくりですよ。で同じ漢字、まあ最近ハングルですけど、文法も同じような言葉を使っていますんで、ちょっと見には近い関係だと。で、行くともう非常になんだあまり日本と変わらないじゃないかと。ハングルのね、アレだけ除けば、あまり外国に来た気はしないねという感想もよく聞んですけども、最初はそうなんですけどね、**ちょっとお付き合いしてみると、やっぱり日本人と韓国人っていうのは、相当やっぱり考え方に差がありますね。**

えー、ということでその辺をですねえ、表面だけ見たんじやなかなか分からない。そこを随分まあ私も今回、長年の経験で以ってですねえ、この本に纏めた訳でございます。」

「まあこのほんのタイトルはですね、**『ほんとうは“日韓併合”が韓国を救った!』**というタイトルなんですが、

やはり私もですねえ、実はこの表紙にもね、写真が写ってますけどね、**日本が併合する前とする後のですねえ、使用前・使用後みたいな写真がよく比較**されますけれど(ええ)明らかにそのインフラと言いますか、**が違いますよねえ。」**松本氏「そうですね。もうやはり



ですねえ、あの一、韓国、当時、朝鮮ですけども、**なかなか独自ではですねえ、近代化が出来なかった。**どうしてもその近代化する為には**当時のお金で、まあ年間3千万円位必要**でしたけども、**朝鮮内部**

**での税収**と言いますか**収入、これは700万位**ですから、**もう物理的に言って難しかった。**

えー、そこへですね、**日本がいろいろと援助**をして、これはもう**日本の為**でもあったわけです。まあ**ロシアの侵略**も控えてましたので。

朝鮮には是非とも近代化してもらって、本当は朝鮮にですね、その近代的軍隊を作って、で、**近代化して清からも独立し、で、ロシアからもですね、いわゆるロシアの南進を防いでもらいたかったと。**でもそうはいかなかったんですね。**残念ながら朝鮮自身では近代化できなかった。**

やむを得ず、まあ**日本も大きな負担を背負いながら、韓国に当時まず報告と、それから併合と、いう形で進んで**いったわけですけど、まあ確かにその間35年間、今、浜口さん仰ったように、韓国、非常に、**朝鮮は発展**しました。

えー、これ35年間ですねえ、まあ確かにこの本の表紙にもありますように、**朝鮮の様子は、まだまだ古代国家から脱皮したぐらいのレベル**だったんですね。

特にコレ、南大門がございましてけれども、(ホントになんか見るからにですね) ええ。でそういう状態であったものがですねえ、**わずか35年間で以ってですねえ、近代国家に生まれ変わった。これはもう本当に当時のですねえスピードからいきますと、相当な高度成長**でございますね。

で、私が思いましたのは、これはあくまでも日本は、その当時の人口の2%位しかおりません。**朝鮮の人達がやっぱり近代化のためにですねえ、これはもうやむを得ず、まあ日本との合併を、まあぎりぎりの選択としてまあ選んだ。**そして日本は、**日本としても日本の独立を守るために、まあギリギリの選択として朝鮮をまあ抱え込んだ。**そういう**生き残りのためのマイナスの選択**だったんじゃないかと思えます。

それに対してですね、いろいろとお話もありますけれども、やはり**結果的に見ても、これだけの近代化をですね、短期間でやり抜いたというのは、これは朝鮮の人達ですねえ、大きな力**だったんじゃないかという風に思えます。」





浜口氏「そういう事を考えるとですねえ、今の韓国で仰られている日本の統治の歴史というのですねえ、**逆に韓国人の人達にとっては不幸な歴史**になっていますよね。」

松木氏「そーなんです。やはり戦前の韓国の人達、非常に頑張ったんですね。非常に頑張ってあれだけ短期間でこれだけのその近代化を達成した。

ところが、今、その朝鮮の歴史について、韓国ではいわゆる**七奪**と言われましてですねえ、**7つの物を日本が奪ったと**。

いわゆる**国王・主権・土地・国語・名前・命それから資源**。この7つの物を日本が統治時代に奪ったと、まあ言うているわけなんですけれども、えー、これがですねえ、本当にそうであるかどうか。私もその**1次史料をですね、いろいろ調べてみましたところ、実態はそうではなかった**。

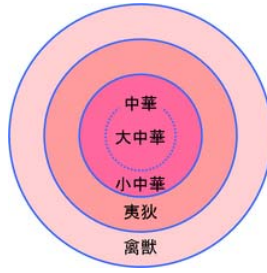
**韓国人の人達も非常にアクティブにですねえ、日本とともにその近代化にもう邁進していた**ということが段々分かってきて、ですから、ここで今その韓国のその**七奪**という、いわゆる**反日教育**。これをやるという事が、むしろ韓国のその祖先、アナタたちの韓国のね、祖先の人達の努力をむしろ貶めているんだ。という事は逆に言うと、**祖先の事を貶めるという事が、今、自分の体に流れているその韓国人の血も、これも誇りが持てなくなって来る**。

いわゆる韓国人自身が自分自身ですね、その誇りを失ってしまっているのではないかと。**日本を陥れる事によってですね、七奪教育によってかえって自分自身の方へ跳ね返ってきているんじゃないか**、という風に思いますねえ。」

浜口氏「それからよく言われるのが、日本はですねえ、先生も(本の)中に書いてますけど、

**日本は韓国を外国の1つという認識**だと思ってるんですけど、**韓国は日本に対しては凄いいライバル意識**というかですねえ(ええ、ええ) 絶対に日本には負けないんでという、負けたくないんだという、なんかもうキョーレツにあると思うんですけど。これも近いからこそなんでしょうけど、難しい問題ですよ、」

松木氏「まあ非常に、まあ近親憎悪というんですかね、そういうのあるんでしょけども、特に日韓の場合、その難しいのは、**いわゆる小中華意識**っていうのが、もうどうしても長い間、もう千年以上ですねえ続いてきてまして、



日本は要するに東夷の民ですね。我々のその自分の**親分は中国**なんだと。で、**自分はその一番弟子**だ小中華。で**日本はその更に下の、東夷という事で、絶対的に劣る国**だという、そういう意識がずーっとまあ何百年も続いてきて、まあそこにもってきて、まあ**近代化の折にですねえ、どうしても日本の軍門に下らざるを得なかった**。これはもう致し方なかったんですけども、そういう**非常に屈折した気持ち**がありますねえ。

ですからそれに対して、まあ**日本については、いわゆる見下していた国に、またいっぺん統治されてしまった**。で、その国がドンドン自分達よりも先進国になって、第二次大戦後もですねえ、**大きな国になったという事に対して、どうしてもやっぱり自分達の最初に外国としてというよりも、もう日本そのものがその何ていいますか、ライバル意識から離れない**。

何かあると、日本ではどうだ。日本ではどう思ってるんだ。いつになったら日本を追い抜かせるんだと、常にその意識の対象がイチ外国じゃなくて、**ライバルとしての日本**とい

うことから離れられないんですね。」

浜口氏「大山さんも韓国に行った事があるんですよね?」  
アサト「はい。学生時代に行った事があります。でもその時はスゴク日本っぽいところ多いなって所だったりとか、今も**韓流だったりK-POPだったりスゴク人気で、スゴク表面上、良い関係があるんじゃないかなって思ってたので、本を拝見しまして凄くビックリすること多かったです。結構ショックでした**。」

松木氏「私もですねえ、初めて韓国に行きましたのは、大学生の時なんですけどもね、で、なんか非常に懐かしい、どっかのキャッチフレーズありましたよね、初めてなのに懐かしいという、裸電球の街灯がついていたりね、あるいはレストランで麦ご飯が出てきたり、とってねえ、なんとなく日本に近い、それも昔前の日本に近い、タイムスリップしたようなね、そんな懐かしさがあったんです。でまあ先ほども申しましたように、今度はそういう観光ではなくて、**実際仕事で以って韓国で長く暮らしてみると、すると段々今度は、日本と韓国の違いというのが良く分かってくる**んですねえ。」

浜口氏「まあそういう違いというところからですねえ、ひとつ紹介したいのは、最近また、**慰安婦問題**ですねえ(ああ、ああ) 結構あの一、ニュース等でも報道されていますけれども、まあ韓国版のヤフーのですかね? これちょっとビックリしたんですけど、」

松木氏「はい、そうですねえ、あの**慰安婦問題**。今回も**日本大使館の前に慰安婦の像を造ると**かね、まあこれは**外交的にとんでもない話**でしてね、これは外国から見たら本当に笑われちゃうんじゃないかと思うような行為なんですけども、**まあ韓国人、なんかやりだしたら止まらないって事が**ございましてね、で、慰安婦問題っていうのは**一番この問題点は、事実上立脚してない非難を受けて、日本がそれに謝っている**ということなんですね。

で、慰安婦問題っていうのは大きく分けて**二つのウソ**がございまして、

それはまずですねえ、大きなウソはひとつは、**歴史の歪曲**でございまして。何が歪曲かと言いますと、**女子挺身隊**いわゆる日本でみんな昔、**勤労動員**をされてまして、若い女性が工場で働きましたねえ、もう男性たちがみんな戦場に行ってますから。その穴を埋めるために工場で一生懸命働いた。**その女子挺身隊のことをですね、慰安婦だ**という風に言っています。



で、朝鮮でも、この女子挺身隊は朝鮮では最終的に発効されませんでしたけども、まあ自ら進んでね、学校とも話をして自ら進んで、一生懸命韓国、当時まあ日本でしたから、お国のために自分達も行くんだという事ですねえ、多くの朝鮮の女性たちが女子挺身隊にですねえ、応募して工場で働きました。

もちろん、彼女たちは一生懸命工場で、汗水垂らして働いたのであってですねえ、決してその**慰安婦だとかそういうことになったわけではありません**。まったく女子挺身隊と違うわけです。

ところが!今ですねえ、先ほど**歴史の歪曲**と申し上げましたのは、**韓国では、女子挺身隊として法的に、組織的に日本政府が徴用して戦地に送って慰安婦にしたと。そういう風にですねえ、正式に教えている**わけです。

で、コレがひとつの例でございまして、これは**韓国コリア**

ンヤフーですねえ、これ現在使われております。現在コレ、アプローチすれば出てくるんですけども、そこにどう書いてあるかと言いますとですねえ、これ、挺身隊の項です。ここへ、**【第二次世界大戦、日本軍に強制徴用されて戦地に配属された、おもに韓国の女性からなる従軍慰安婦に対する日本側の公式名称】**と書いてあるんですよ！これは**とんでもない思い違い**と言いますかね、まあ**これが一人歩き**している。(後編につづく・・・)

女子挺身隊と従軍慰安婦を間違えるなんて...マジ呆れますよね。

まあ竹島の件もだし、一事が万事思い込みだけなんだけど。こう言っちゃ身も蓋もないんですが、韓国バカすぎ。ウソばかりで辻褄が合わなくなっている。

で、韓国政府もウソを検証せず、そのまま国民に教えるって・・・(´。´)がカソ 国際社会でいい加減笑われますよ。松木氏も言っていたけど、「やりだしたら止まらない」韓国人気質のせいなんだと思います。

こういう話は韓流好きの人も合わせて、日本国民みんなが絶対に知るべき事ですね。

松木氏は、知韓派特有の嘲笑型でもなく罵倒型でもないのが嫌味がなくて良かったです。この人の体験談に興味を持ったので、この動画を見て、即、この本を楽天で注文しました。

蛇足：(韓国旅行で思い出したんですが、30年くらい前にうちのダンナも物好きで、大学時代に韓国旅行したんですよ、釜山ですが。

もう田舎過ぎて衝撃だったそうです。特に豚舎上のトイレ(人の排泄物をエサにする仕組み)とレストランの紙なしトイレは一生忘れられないそうです。あと昼間は停波しているテレビとか、盗難とか・・・)

### 『ほんとうは"日韓併合"が韓国を救った!』 (後半)

松木氏「・・・えー、それとこれに関しまして**もう1つ**、その歪曲という点について申し上げます、

えー、**日本軍がですねえ、それこそ畑で働いている女性、あるいは町中の女性をですね、拉致して、で、トラックに積み込んで、でそれをですねえ、なんか警察の留置場に詰め込んでおいて、ある程度まとまったら、船に乗せてその戦地に送って慰安婦にする**と。そういう事をですねえ、まことしやかにまゝ言われています。

で、これは実はですねえ、あの**吉田清治**という人が、**自分の本にそれを書きまして、で、結局後で調べたらそんな事は、事実ではなかった**という事だったんですけど、



えー、この本がたまたま韓国語にも翻訳されて、で、**韓国の人達はそれを見て逆上**しましてね、とんでもないと。一旦、**こういう噂が広がりますとですね、もう止まんないんですよ**。で、**実はこれが今もう事実という風に定着**しているわけです。

ただ、**本当にそうだとするとですよ、自分の子供が、娘が、兄妹が、恋人が、日本軍に連れて行かれようとするならば、あとでどんな事になるかと、自分の命を懸けてでも取り返しますよね。**(そうですね。) **暴動が起きますよね。**

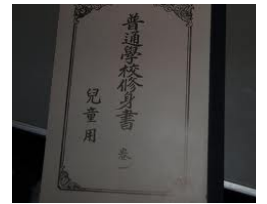
ところがそんな暴動なんか一件も記録がない。

じゃあ、朝鮮の人たちはそんなに無気力な人だったんですか。自分の子供が、恋人がね、連れて行かれるのに、暴動ひとつ起こさなかったのか?そんな事はありませんよね。**朝鮮の人ももちろん家族に対しては非常に絆が強い民族**ですから、そんな事をしたらですねえ、アツという間に全土が暴動の渦になってしまうはずですよ。でもそんなの一件もなかったという事は、そういう拉致もなかったということですね。

浜口氏「まあそういう従軍慰安婦云々が広がる一方で、こういうのが教科書にあってですね、また意外だったんですが、こういうのですね。」

松木氏「あっ、これはですねえ、あの一、良く言われますのは、朝鮮ではですねえ、先ほど申しました、**七奪の中に、言葉を奪った。国語を奪った。**という風になっております。でも、この本にも書いてありますが、国語を奪ったところが、一生懸命ですね、**日本の総督府は、いわゆるそのハンケルをもう一度見直しました。**これ最初に見直したのは福沢諭吉ですね、

福沢諭吉が諺文(ハングル 卑称)として、まあ**非常に蔑まれていた。ほとんど使われていなかったいわゆるハンケルを、これは素晴らしい文字があるじゃないかという事ですねえ、それを再発見**しまして、で、それを、当時はまだその文字としての体系を為してなかったんですけども、**朝鮮総督府が頑張っ、その文字としての体系をですね、学者を集めて作った**わけですね。



で、その時に発行した朝鮮総督府の、これは**修身の教科書**でございます。ご覧のとおりですね、**上は日本語。下は朝鮮語**で書かれています。これはいわゆる普通学校と言いまして、日常会話を朝鮮語とする学校。

いわゆる朝鮮人を対象とする小学校で使われた、朝鮮総督府が発行した正式な教科書にこの、載っておりますが、これをご覧ください。これは**日本人の大人がですね、帽子を取って礼儀正しく、この朝鮮人の子供に道を聞いている場面**でございます。これを修身の教科書に載けて、**学校で、朝鮮人の学校で教えていた**わけですよ。

だからこの絵を一枚ご覧に頂くだけでもですねえ、当時の日本人と朝鮮人の関係、朝鮮半島における関係が一目瞭然じゃないかという風に思います。

**決して、植民地支配として虐待したと、まあそういうのが濡れ衣だという事が、この絵を一枚ご覧になるだけでも私は分かるんじゃないかという風に思います。**



(←動画の説明の物とは違いますが、一例)

浜口氏「そういう歴史があるにも関わらずですね、冒頭申し上げましたように、やっぱり日韓っていうのは非常になんか溝があると言うかですね、えー、なかなか表面的な仲の良さがあったとしても、こうになんか、なんかこう、中に1つの線が入っているような、壁があるような、まあ感じを受けるんですね。

特に**最近慰安婦の問題**もそうですね、**領土問題**とかもですね、なかなかこれ日韓の間でですねえ、これどうやって解決していけば良いのかっていうのは、答えがないと思うんですけども、松木先生、領土問題とかどういう風に、これ**竹島の問題**ですけど、どう思っておられますか?」



松木氏「まあこれは難しい問題があるんですが、もちろん、あの、**法的にはですね、これはあの、間違いなく日本の領土であることは間違いありません!**

ただ、残念ながらですね、**軍事的に占領されている。不法占拠なんかじゃなくて、アレはもう軍事的に完全に占領されているだけの話なんです、日本の領土を。**

ですから、**何としてでも取り返さなきゃいけませんけれど、**今までが、残念ながらですね、**押し押しされ、要するに向こうが軍隊を上陸させても、日本は有効な手立てを何も打ってこなかった。**

えー、ヘリポートを造ろうがですねえ、観光客をあそこに誘致しようが、**やっぱり一方的に押し付けられてはいけません。**だから、これはあの、**すぐに日本が軍艦を出して取り返せと、**いうわけにもこれはいきません。今の国際情勢からいきまして、やはりそういう事は多分、**難しいでしょうから。**

とは言いながらも、**これは諦めちゃいけません。その為にはもっとアピールしなきゃいけませんね。**

もうあの、**国際司法裁判所にももちろんドンドンアピールしなきゃいけませんし、**それと同時に、この前、**新藤先生、それから稲田先生、佐藤先生、お三方行って頂きましたね。**

**あれは本っ当に良かった**と思いますね。やはりあれによってですねえ、世界中にかなりですねえ、**報道されましたし(そうですね)あれによって竹島の問題っていうのがアピールした。世界中にそれが広まってしまった。**



韓国の方ではむしろ朝鮮日報なんか、**アレ見てですね、ヤバイ、かえって拙かったな。騒ぎすぎちゃいかんかったなと、日本にしてやられた。というような反応が出ています。**

ということは、**逆にそういう事をですね、ドンドンやっぱりこれからもですね、続けていく。**そういう事によって、**要するに世界の中の竹島。これは一体どっちのものかという世界世論に喚起していく、**まあそれ以外にとりあえず方法はないのかなという風に思いますね。」

浜口氏「まあ本来ですね、いろんな問題が日韓の間にあるんですけど、**そうは言っても、先生も胸にブルーリボンつけてらっしゃいますけど、やはり日韓っていうのはですねえ、**拉致問題ですね、**対北朝鮮の拉致問題っていうのも共通のテーマとしてあると思うんですけど、**こういう問題、**本当は一緒にやるべきで、日韓というのは本当は友好が必要だと思っんですけどね。」**

松木氏「いや、まったく僕もそうです。ですからやっぱり日韓というのはですねえ、**今のままでは非常に上手いじゃない。**その為には、過去の歴史をですね、**彼らは非常に拘ってますから、私達も過去の歴史にですねえ、もう1つよく拘って、で真摯に歴史を大局的によく見つめ直す。**そうする事によってですね、**韓国の人たちの誤解を解くという事が僕は一番大事だ**と思います。

で、韓国はもう本当に、**だから我々としては、色々やってあげたとか、そういう事を決して言うんじゃないで、**あれ(日韓併合)は先ほど申しましたように、**もう利害の一致であり、マイナスの選択の中のまあ最終的な決定**だったわけです。

けれども、その中で**一生懸命、韓国と日本が頑張ってきた。そしてその、韓国のその人達の戦前の努力があった**

から、**日本人たちとの、要するに日本人達と一生懸命に頑張ってますね、協力を得て、資金を得ながら、**しかし、当時2%しか人口がなかった、**日本人は。後の98%の朝鮮人が頑張った。だから今の韓国があるんですよ。**アナタ達のその祖先が**日本と一緒に手を繋いで頑張ったから、今の韓国の発展があるんだ**という事ですね、**そういう事をもう一度分かって頂ければ、その棘が抜けるんじゃないのかなと。多少痛みがあっても真実に向かい合って棘を抜いてこそ、私は日韓が本当に上手く行くんじゃないか**という風に思います。」



### (日本人は殺せという韓国人)

浜口氏「まあそういう風な事も含めてですね、この本を是非読んでいただくと、その辺のところもはっきりとね、分かるのかなあと、是非多くの方にね、読んでもらいたいと思いますねえ。」

### 櫻井よしこ氏推薦

松木氏「はい、私の思いも込めて書きましたので、ひとつよろしくお願ひします。」

浜口氏「今日はどうもありがとうございました。」

松木氏「はい、ありがとうございました。」

(以下 略)

要するに、**今、日本人こそが真実をちゃんと知ることが大事だ**という事ではないでしょうか。

事実ではない事で一方的に責められて、あげく謝罪してしまうのは、**先人に対して申し訳ない事だし、歴史への冒瀆**です。で、それは両国にとって一番良くない事です。

ここは冷静に、**史実だけに目を向けていけば良いだけの話だ**と思いました。

でも、それを阻むのは**反日日本人**の存在です。特にテレビのコメンテーターはヒドイ。

韓国側のウソの論理の代弁者がいっぱいいます。

新藤さん達が**入国拒否された時**も、多くのコメンテーターが批判していましたよねえ。。。

そういうのに惑わされないようにするには、**歴史の大局を自分で探るしかない。**

今はネットで調べれば何でも分かります。簡単な事です!

韓流やK-POPが日本のテレビに溢れているから、**日韓が上手くいってるなんて思わない方が**良い。

文化交流は良いんだけど、**これまた一方的だし、何でも押し付けばなしは**良くない!

うわべで近づいたように見えても、**結局、竹島問題と歴史認識の壁を取り払わない限り、根本的な友好関係なんて絶対**にムリなんです。

だから**韓流や韓国が大好きな人こそ、この棘を抜くために日韓の歴史をお勉強**するべきだと思います。